ひと

アジア大会のメダルの模様を考案したデザイナー

志波（しば） 大輔（だいすけ） さん(40)

19日から愛知県内を主会場に始まるアジア・アジアパラ競技大会で、入賞者へ贈られるメダルのデザイン案が採用された。

割れた円盤が合わさったような模様は、大会スローガン「ここで、ひとつに。」「ころを、ひとつに。」から着想。「スポーツを通して再び一つになる」「努力のかけらが一つの結晶になる」という思いを表現した。20枚あまりのセラミックの円盤をたたいたり、落としたりして割り、その形状を参考にした。「体を使って挑戦をしている選手にお渡しするものをデジタルに頼ってはいけない。泥臭い方法で応えるのが礼儀」

大学で建築を学んだが、デザインの世界に魅力を覚え、飛び込んだ。独立後は塾の講師をしながら食いつなぎ、10年前に会社を設立した。堺市の住宅街にあるビルに事務所を構え、店や企業のロゴマーク、商品の包装や名刺、本の装丁のデザイン、またナンバープレートの図案などを手がけてきた。

仕事は何でも引き受け、興味を持った公募には積極的に申し込んでいる。アジア大会もその一つ。「規模は大きく歴史もある。一生できるかできないかのような仕事にご縁をいただき、ありがたい」

メダルが選手たちの首にかけられる姿を見る日を楽しみにしつつこうも言う。「これがすべてじゃない。日常の生活をどう豊かにするかという僕らの仕事にまた打ち込むだけです」

文・写真　臼井昭仁